

第24回原子力安全文化有識者会議 議事概要

- 開催日時 2020年9月24日(木) 13時15分～16時10分
- 開催場所 島根県民会館 多目的ホール
- 出席者 〔社外委員〕梅林委員, 亀城委員, 児玉委員, 高尾委員, 豊田委員(座長), 野津委員, 山浦委員 (Zoomオンライン会議による出席)
〔社内委員〕重藤原子力強化プロジェクト長(幹事), 芦谷副社長, 北野常務

○ 議事内容

1. 開会あいさつ(重藤幹事)

- ・ 前回(2020年2月19日開催)の有識者会議で報告したサイトバンカ事案については, 委員の皆様をはじめとして地元の皆様, そして関係者の多くの皆様に大変なご心配をおかけした。改めてお詫び申し上げます。
- ・ 当社としては, 過去の点検不備問題やLLW流量計問題を受け, コンプライアンス最優先の事業運営を推進し, 原子力安全文化の醸成などの再発防止対策を進めている中で, 今回の事案を発生させたことを大変重く受け止めている。
- ・ 今後, 同様の事案が発生しないよう, 当社と協力会社が一体となって, 再発防止対策にしっかりと取り組むとともに, この有識者会議でのご意見やご提言を再発防止の取り組みにしっかりと反映し, 原子力安全文化の一層の醸成に努めてまいりたいと考えているので, ぜひとも忌憚のないご意見を賜るよう, お願い申し上げます。

2. 議事

(1) 「サイトバンカ建物の巡視業務の未実施」に関する調査報告について

資料にもとづき, 島根原子力発電所所長 岩崎, 電源事業本部部長 高田および原子力強化プロジェクト部長 吉安から説明し, 質疑を行った。

主な意見は以下のとおり。

〔中国電力に対する総括的な意見〕

- ・ 今回の事案は協力会社への委託業務において生じたものであり, 主体は中国電力。まずは中国電力が反省すべきである。協力会社を少し上から見ているように思える。
- ・ このような事案が起きると, 何か初歩的なことでつまづいているように思える。これまでの努力が数名の不適切な行為により, 良いところまで行きながら元に戻ってしまう。これは, 最終的に中国電力の体質として捉えられてしまう。
- ・ このようなことが起こると, 本当に安全なのか, 大丈夫なのかとってしまう。
- ・ 点検不備問題からLLW流量計問題, そして今回の事案と不適切事案が続くことについて, 中国電力は重く受け止めるべきである。今回が3回目であり, 野球であれば3ストライクでアウトである。
- ・ 中国電力と協力会社では, 原子力発電所で勤める心構えについて温度差があったことは否めない。

〔業務管理に関する意見・提言〕

- ・アクションプラン等を立てても、一人ひとりの仕事に対する自覚がないと、いつまでも同じことの繰り返しになる。今後は、「してくれるだろう」ではなく、「もし、こういうことが起きたら」「もし、こんな人がいたら」ということに留意して取り組んでほしい。
- ・中国電力が2か月に1回、委託業務を立会していたのに、なぜこの問題が分からなかったのかが疑問である。
- ・協力会社の手順書が不十分であったことも考えられない。発注者である中国電力に最終責任があると書いてあったが、中国電力はきちんと指導してこなかったのではないか。
- ・水平展開については、中国電力と協力会社間の安全文化醸成の浸透度合いを踏まえ、受け手側の協力会社にとって理解しやすい方法で行ってほしい。
- ・協力会社（現場）の感覚と中国電力の要求事項に齟齬があるのではないか。中国電力からの要求が多くなれば、ルールが煩雑化して、安全が逆に軽視されてしまう可能性がある。

〔業務運営・仕組みについての意見・提言〕

- ・原子力発電所の安全にとって大事なものは、上からの押しつけではなく、ボトムアップ。リーダーが教え込むことによって皆が同じように仕事ができ、チームとして問題解決を図ることができる「現場力」が問われている。
- ・人間はミスをする可能性があるため、「IoT」や「AI」等のデジタルを活用し、人間の行為を補完することを考えていく必要がある。
- ・委託業務だけでなく、請負業務においても安全教育を実施することが考えられる。
- ・運転員等の資格取得の難易度を上げて、その代わりに給与も上がるというような仕組みがあれば、責任感を持って仕事ができ、励みにもなるのではないか。
- ・性善説ではなく、性悪説に立った対応をすべき。不適切な事案が起きない仕組み、ミスをしようにもできない仕組みを作るべきである。

〔社員等の意識・行動についての意見・提言〕

- ・本事案では、組織の中でのリーダーシップの欠如や人間関係の希薄さを感じた。管理者不在の場面でこそ、一人ひとりのリーダーシップ発揮の真価が問われると思うので、組織で取り組む問題として強化を図っていただきたい。
- ・再発防止にあたり、協力会社と一体となった取り組みを目指すのであれば、社員一人ひとりが今回の事案をどう受け止めているのかが重要。協力会社との間に溝はないか、協力会社との連携意識が十分にあるか、あるいはどう築いていくか、一人ひとりが自ら問いかけてもらいたい。
- ・協力会社に対して、「言えば伝わる」という思い込みが中国電力になかったか。日頃からもっと情報交換を行い、信頼関係を築いておけば、安全文化は伝わっていたのではないかとと思う。

- ・安全文化に基づく行動が当然のようにできるのが本来の姿であるが、協力会社では、人によっては、仕事の目的を忘れ、ただこなすだけになっていたのではないか。当事者意識が欠落していたのではないか。
- ・「常に問いかける姿勢」が、社員の中で共感を得られているのか、しっかりと問い直されるべきである。

〔調査報告書に対する意見〕

- ・報告書があまりにも詳細すぎて、何が本質か見えてこない。これで、何を改善すべきなのか、中国電力と協力会社が一体となってどこを目指すのか、社員が理解できるかどうか疑問である。
- ・この報告書は、一般の人が読みやすく、わかりやすいものになっていない。何が問題なのかもわかりづらい。
- ・サイトパンカの中で何が行われているかがイメージしづらい。

(2) 「点検不備問題」に係る再発防止対策の実施状況・評価ほかについて

資料にもとづき、電源事業本部部長 高田および原子力強化プロジェクト部長 吉安から説明し、質疑を行った。

主な意見は以下のとおり。

〔不適合管理プロセスの運用状況に対する意見〕

- ・安全に影響を及ぼす事象（グレードA、BおよびC）をいかに下げていくかという観点で、安全文化が良くなったかどうかを確かめたい。また、グレードCとDの区分にあたっては、安全に影響があるかどうかを、客観的な基準をもって判断してほしい。
- ・重大な事故を起こさないということが大事。人的なエラーであっても、機械的なエラーであっても、グレードの判定にあたっては重大な事故に結びつかないかどうかを考慮してほしい。

〔「お客さま視点の価値観を認識する機会の拡大」に対する意見〕

- ・今般のコロナ禍による実績の大幅減を受け、今後は、人が集まる、地域の人と交流するという方法から大きく変えることも考えてはどうか。

(3) 情報提供：島根原子力発電所2号機 新規制基準適合性審査の状況について

資料にもとづき、電源事業本部部長 三村から情報提供し、質疑を行った。

3. 閉会あいさつ（重藤幹事）

- ・本日は長時間にわたり、貴重なご意見・ご提言をいただき、感謝申し上げます。
- ・これまで委員の皆様のお力をいただき、様々な取り組みを進めてきた中で、今回サイトパンカの問題を起こしたことについて、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいである。本日皆様からいただいたお叱りやご意見は、心に刺さっており、深く反省している。
- ・本日いただいたご意見・ご提言をしっかりと受け止めて、当社および協力会社が一体となって、

再発防止対策に取り組んでまいりたい。

- ・こうした取り組みの進捗状況については、今後もきちんと有識者会議に報告するので、引き続き変わらぬご支援をお願い申し上げます。

以 上